

5 整備内容 - 4

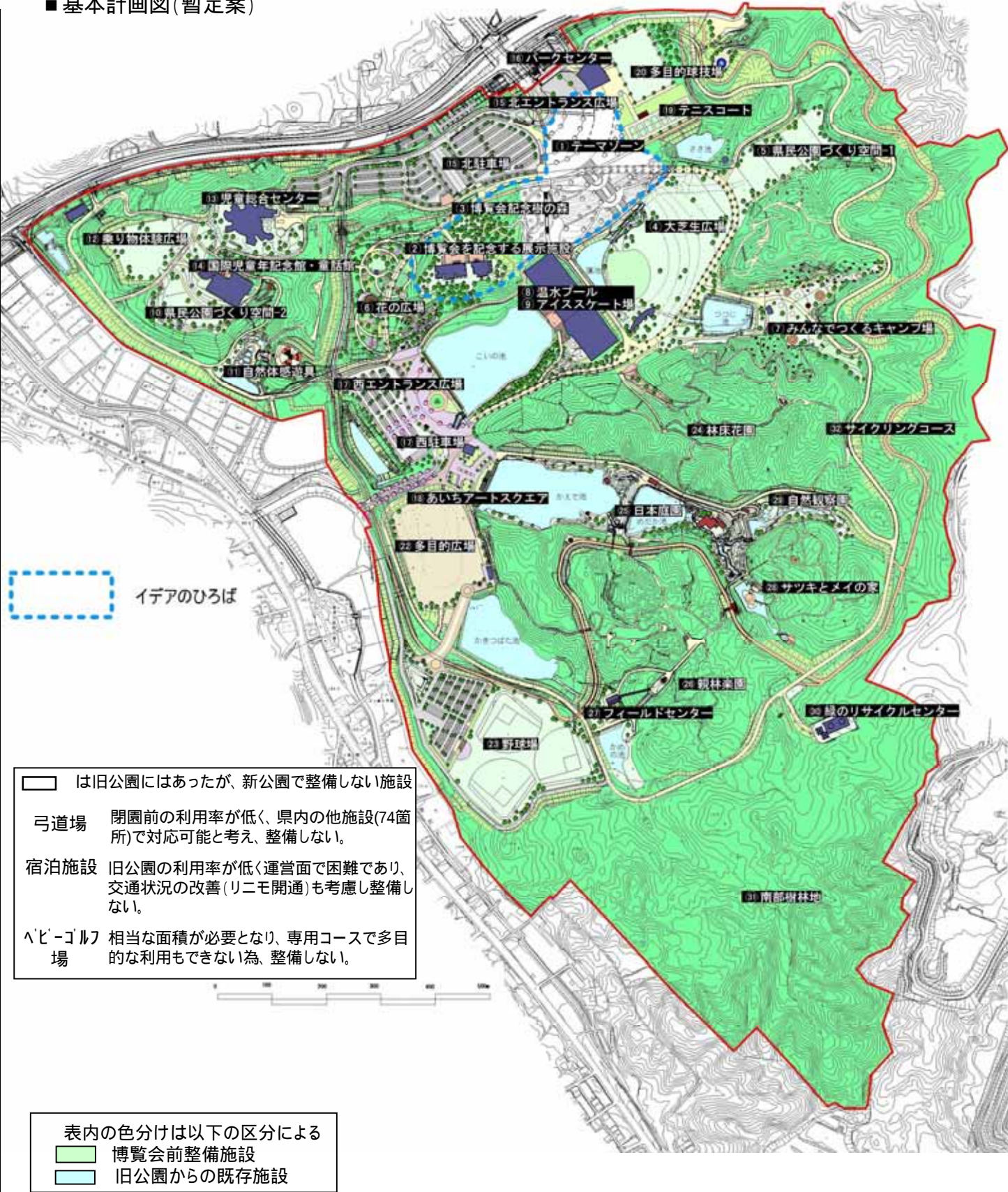
(2)施設計画

これまでの検討内容を踏まえ、基本計画図・施設一覧(暫定案)として整理すると以下のようになる。なお、テ・マゾ・ンについては、博覧会のテーマを引き継いだ展開としてさらに検討を進める予定であり、現段階では白表示としている。

■計画施設一覧

ゾーン	エリア	施設名	施設概要	旧公園における規模
ひろばのゾーン	アイデアのひろば	① テ・マゾ・ン	博覧会の理念と成果を引き継いだテ・マを展開するゾーン	-
		② 博覧会を記念する展示施設	博覧会開催記念品の展示 迎賓館、レセプションホールを活用	-
		③ 博覧会記念樹の森	博覧会を記念した記念樹を移植	-
	みんなのひろば	④ 大芝生広場	広く開放的な芝生広場の交流空間：5 ha	約5.5ha
		⑤ 県民公園づくり空間-1	県民参加の公園づくり空間：1.5ha	冒険ひろば：0.8ha
		⑥ 花の広場	花木や草花により、四季の景を楽しむ空間、花と緑にかかわる 新技術提案の場：2ha	-
		⑦ みんなでつくる キャンプ場	施設計画づくりを県民と行う、ディキャンプを主体としたアウトド ア空間：6ha	第1：約3ha 第2：約3ha
		⑧ 温水プール	(既設利用)流水・造波・25m・ちびっこ・冒険の各プール、スライダー、ジャクジ等	
		⑨ アイススケート場	(既設利用)外周リンク周長200m・内リンク・スタンド	
	こどものひろば	⑩ 県民公園づくり空間-2	子ども主体の県民参加の公園づくり空間：2ha	ベビーゴルフ場18ホール
		⑪ 自然体感遊具	風・水・森の各エリアで自然を体感しながら遊ぶ空間：1ha	ジャブジャブ池等
		⑫ 乗り物体験広場	ワクワク感、爽快感を体験できる乗り物遊戯空間：1ha	ゴカート場1周580m、ミニ カー場、ちびっこサイク リング1周200m
		⑬ 児童総合センター	(既設利用)プレイアトリウム、各種プログラム等：延床面積16900㎡	
		⑭ 国際児童年記念館・ 童話館	(既設利用)こどもホールの、童話館、ビデオ室等：延床面積6230㎡	
	北エントラ ンス ひろば	⑮ 北エントランス広場 北駐車場	(県道)カ石名古屋線、リニモ駅からのアクセスとなる公園の北 入口、駐車場：普通車1130台	普通車：1518台
		⑯ パークセンター	公園管理運営、県民参加活動拠点、休憩、インフォメーション、 屋内運動施設等	管理・会議室・講堂等 13000㎡、文化棟1500㎡、 宿泊棟5100㎡
	西エントラ ンス ひろば	⑰ 西エントランス広場 西駐車場	(県道)田初名古屋線からのアクセスとなる公園の西入口 、駐車場：普通車385台	普通車：680台
		⑱ あいちア・トスクエア	彫刻等を配し、県産材を舗装等に活用した広場：0.7ha	-
	健康 スポーツひ ろば(北)	⑲ テニスコート	8面	10面
		⑳ 多目的球技場	サッカー場1面、ラグビー場1面、ホッケー場1面：(兼用)	サッカー場1面、 ラグビー場1面：(兼用)
		㉑ 屋内運動施設	体育館第1：1800㎡ 第2：800㎡ (パークセンター内へ併設)	体育館第1：1350㎡、第2： 750㎡、第3：750㎡、 弓道場440㎡
	健康 スポーツひ ろば(南)	㉒ 多目的広場	400mトラック1面、サッカ-場1面、ホッケー場1面、野球場1面、 ソフトボール2面：(兼用)	400mトラック1面、 サッカー1面：(兼用)
		㉓ 野球場	野球場3面、ソフトボール3面：(兼用)、 駐車場345台	第1：2面(軟式) 第2：3面(少年)
もりのゾーン	㉔ 林床花園		ユニバーサル園路を利用して、四季折々の樹林風景を楽しむ 空間：12ha	オリエンテーリングコース等
	㉕ 日本庭園		水や緑に恵まれた環境の中で日本の伝統文化と触れあう庭 園：14ha、茶室(香流亭)1棟	かえで池庭園
	㉖ 親林楽園		フィールドセンター ㉗を拠点とした環境学習・体験空間： 17ha	オリエンテーリングコース等
		㉘ サツキとメイの家	博覧会人気施設の期限付きの存置活用	-
		㉙ 自然観察園	水辺の植物や生物の観察空間	-
		㉚ 緑のリサイクルセンター	刈草・剪定枝をチップ化及び堆肥化し、園内における緑のリサ イクルを実践する施設	-
	㉛ 南部樹林地		保全を優先した樹林地	-
全域	㉜ サイクリングコース		1周約5kmのサイクリングロード、一部既設利用	

■基本計画図(暫定案)



□ は旧公園にはあったが、新公園で整備しない施設

弓道場 閉園前の利用率が低く、県内の他施設(74箇所)で対応可能と考え、整備しない。

宿泊施設 旧公園の利用率が低く運営面で困難であり、交通状況の改善(リニモ開通)も考慮し整備しない。

ベビーゴルフ 相当な面積が必要となり、専用コースで多目的な利用もできない為、整備しない。

表内の色分けは以下の区分による

■ 博覧会前整備施設

■ 旧公園からの既存施設

5 整備内容 - 5

(3) 主なひろばのイメージ



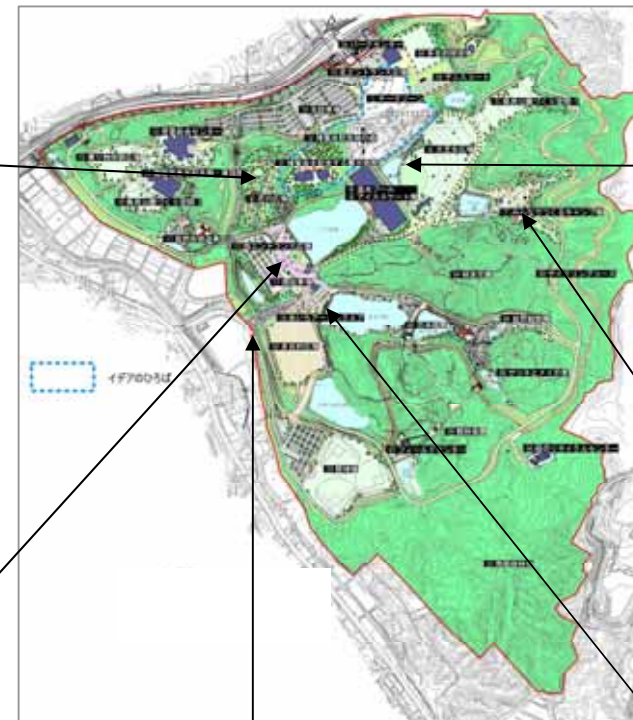
花の広場

花や緑のまちづくり推進に役立つ緑化技術や、花を生活に取り入れるライフスタイル提案の場。県民花づくり花壇や、バイオラング技術を活用した垂直花壇、壁面緑化した休憩所を配置



西エントランス広場

池や森を背景とした落ち着いたイメージやエントランスとしての象徴性を演出するモニュメントを配置



大芝生広場

大勢の人が参加・交流できる多様なイベントに対応する広く開放的な空間。県民参加イベント・プログラムの主会場として多目的に活用



みんなでつくるキャンプ場

ディキャンプ等の気軽なアウトドアレクリエーション空間



西エントランス

公園の入口にふさわしい華やかな景観



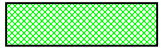
あいちアーツクエア

彫刻やアート作品を配し、瓦などの県産材を舗装等に活用

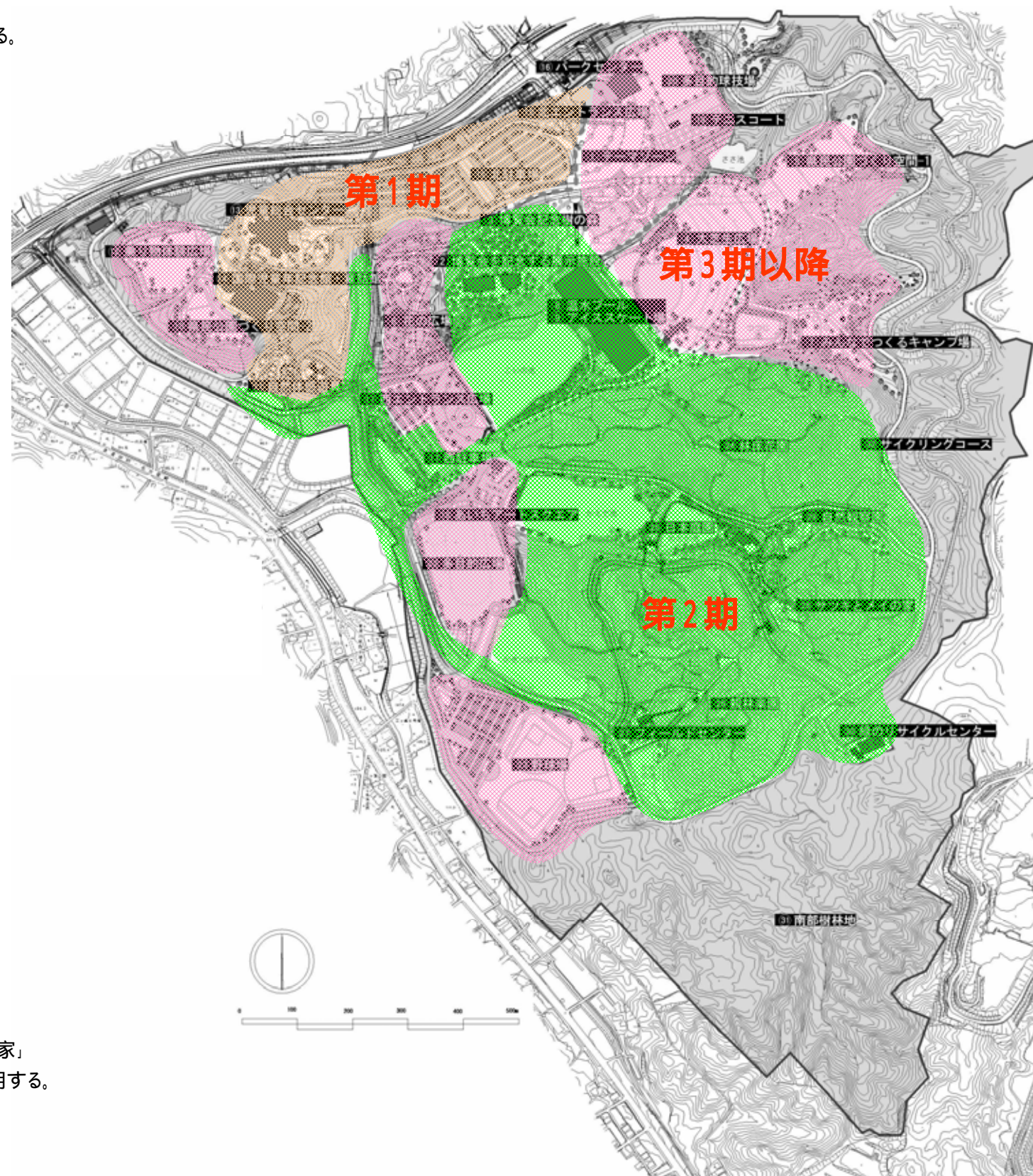
5 整備内容 - 6

(4)開園の順番

本公園における開園のエリア別順番は右図の通りである。

記号	供用開始の順番
	第1期
	第2期
	第3期以降

なお、暫定的に活用する「サツキとメイの家」
「観覧車」は、第1期エリアに合わせて供用する。



5 整備内容 - 7

(5) 公園マネジメント会議の体制づくり

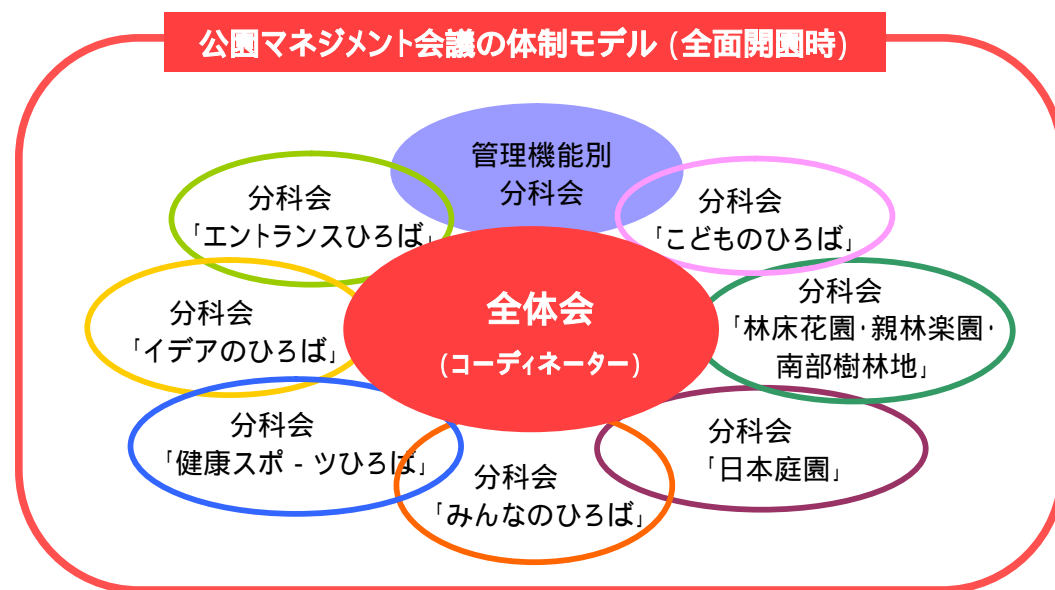
公園マネジメント会議の体制モデル

公園マネジメント会議は、行政、県民、企業、大学等、多種多様な人々により構成される上、公園のマネジメントの要素は多分野に渡る。従って、県民主体の管理運営を実現させる公園マネジメントの展開のためには、様々な立場や役割の人々から得られるたくさんの有効な意見や情報をスムーズに反映できる体制づくりが求められる。

よって、公園マネジメント会議を、開園エリア別の分科会に分け、担当エリアに絞った取り組みを行う。各分科会のメンバーは、エリア別に公園マネジメント会議の構成者(行政、指定管理者、県民、NPO、ボランティア団体、企業、大学・研究及び関係機関等)と各分野の専門家などのアドバイザーにより構成する。

各分科会での検討や管理運営上の提案は、組織の中核となる「全体会」で話し合い、公園マネジメント会議の体制づくりを進めていく。全体会には、各チームや関係者を総合的にまとめる統括力を有したコーディネーターを配置し、県民と行政の中間的な立場で全体会をコーディネートしていく。また、分科会は公園の開園エリア拡大に併せて増設していく。

なお、公園管理運営をより円滑に進めていくため、エリア別の分科会に加えて、管理機能別の組織(植物管理、園地清掃、公園案内などの分科会)を公園マネジメント会議に設置する必要がある。



公園マネジメント計画の策定

公園マネジメント会議の組織体制を確立させるためには、組織のルールとなり、公園および公園管理運営に関わる各要素(人、物、機能、活動、手続き等)を効果的に結合した「公園マネジメント計画」の策定が必要である。

基盤づくり期には、開園エリアのスケジュールと整合を図りつつ、各分科会が試行錯誤を繰り返しながら、全体会の場でマネジメント計画を徐々に組み立てていく。

この時期における検討により策定された計画を第1期公園マネジメント計画とし、将来期においてもこのしくみを継続し、5年後毎を目標として、PDCAサイクル(1)による次期マネジメント計画策定を推進していく。この計画の成熟度に応じて、公園マネジメント会議自体が、初期の組織形態から将来期の組織形態へと成長していく。

■ 公園マネジメント計画の主な内容

主な内容
・県民協働のためのしくみやルール
・多面的な公園利活用
・プログラム運営人材育成
・公園マネジメント会議運営

基盤づくり期における取り組みの具体案

本公園は、平成18年中頃からエリアごとに順次開園する。18年度中に、まず、こどものひろば(乗り物体験広場を除く)と北駐車場、続いてもりのゾーン全域と温水プール・アイススケート場が開園予定であり、開園に向けた準備に至急取り組む必要がある。

開園順序	開園エリア	開園スケジュール	
		18年度	19年度以降
第1期	こどものひろば(乗り物体験広場を除く) 北駐車場	★	
第2期	日本庭園、林床花園、親林楽園、西駐車場、 温水プール・アイススケート場	★	
第3期以降	上記以外のエリア		★ ■■■■▶

● こどものひろば・もりのゾーンエリアのプログラム企画・運営準備

18年度に開園するエリアにて展開する、共通テーマに基づいたプログラムの企画・運営準備に取りかかる。新規企画プログラムの他、ツリークライミング、グローイングビレッジ、インタープリターによる森の自然学校などの博覧会のプログラム継承検討や、こどものひろばでのこれまでの児童総合センターや国際児童年記念館と連携したプログラム活用検討を行う。

また、こどものひろばの「県民公園づくり空間-2」において、子どもたち自らが参加し創造性を高められるワークショップ型の公園づくりプログラムの検討が必要である。(プログラム例:「遊びの王国づくり」「物語ひろばづくり」等)

● 19年度以降開園エリアのプログラム企画・運営準備

18年度開園エリアのプログラム準備と平行して、19年度以降の開園エリアにおけるプログラムの企画・運営準備を進めていく。

● ボランティア活動実践の場づくり

プログラムの企画・運営準備と合わせて、ボランティアの活動の場の創出やボランティア養成などのしくみづくりを検討していく。

● 公園マネジメント会議の初期体制づくり

第1期から第2期開園に向けて、上記の企画や検討、運営準備などの取り組みを行うための公園マネジメント会議の初期体制を整える。そして「こどものひろば」や「もりのゾーン」内の各エリア別に、具体的な企画・準備活動を開始する。

初期体制では、公園管理者(愛知県)と指定管理者が中心となり、関係機関、大学、企業、コ-ディネ-ター等で構成される準備会議や専門家の助言によって基盤の体制を整えてから、徐々に県民参加の要素を増やしていく方法が考えられる。

(6)「サスティナブル・パーク」の実現に向けて

これまでにまとめてきた本公園の整備内容は、「健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長し続ける21世紀型の公園『サスティナブル・パーク』を目指す」という整備・活用目標に基づいたものである。

これまでのまとめとして、本基本計画における『サスティナブル・パーク』への取り組みとなる整備内容を以下に整理する。

サスティナブルパーク

健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長・進化し続ける
21世紀型の公園

■ 県民参加を組み込み、県民とともに成長する管理運営

- 県民(県民・企業・大学など)と行政とのパートナーシップを推進するための公園マネジメント会議の設置。
- 施設づくりから、ソフト企画、ソフト運営管理、維持管理等、様々な面で県民参加による展開に取り組む。
 - ・ 公園全体で一貫性のあるソフトプログラムテーマとして「環境」と「参加と交流」を掲げ、公園全体で、県民参加のもと、持続的な環境づくり、健康づくりにつながるソフト展開を進める。
 - ・ 自然とのふれあいや環境学習など、地球環境を意識した日常生活につながるソフトプログラムを展開する。
 - ・ 県民が計画作りから参加する公園づくり空間を設定し、県民の意見・アイデアで空間整備を行っていく。

■ 環境万博であった愛・地球博の継承

- 博覧会のテーマである環境と大交流を引き継ぐ展開整備を実現。その象徴となる「アイデアのひろば」を設定。
- 博覧会で展開された自然体感プログラムなどを引き続いて展開する。

■ 空間構成、施設計画

- ひろば利用は多目的型とし、特定の公園利用者・利用団体向けではなく、幅広い世代の人々が利用できる形態を目指した。
- 間伐材やリサイクル材の利用を推進。
- 刈り草・剪定材の園内循環の実践施設としてリサイクルセンターの設置。



6 全体計画 - 1 < 利用者数・駐車場容量・動線計画 >

(1) 将来年間利用者数の想定

- ・実績値から将来年間利用者数を推計する。
- ・本公園の近年における入園者数は、概ね年間280万人である。本計画により新たな施設が付加され、公園としての魅力がさらにアップすることから再整備後の年間利用者数は増加すると考えられ、1割増の年間310万人程度を目指すこととする。

(2) 駐車場容量

- ・駐車場台数は、過去の駐車場利用の実績値に基づいて、将来利用者数の推計値やリノモ利用による来園手段割合の変動を考慮した上で、必要容量を検討する。
- ・閉園前の過去3年間に於ける普通車の駐車場利用台数の過去3年間の平均をみると、上位第3位の駐車場台数は約3800台となっている。本計画では、上位第3位の駐車場台数を基準となる利用日として設定し駐車場容量を検討する。
- 基準日における普通車利用台数
 - ・本整備により前述(将来年間利用者)のように利用者は1割増加する。これにより基準日の普通車台数も1割増加するとし、 $3800 \times 1.1 = 4180$ 台となる。
 - ・一方、閉園前の公共交通機関を利用したの来園者割合は1割であるが、整備されるリノモを利用したの来園は増加すると考えられる。その来園者割合は、愛知県における郊外鉄道沿線レジャー施設のマストラ利用率を用いて28%と設定する。
 - ・これにより、基準日における普通車利用台数は、 $(4,180 \text{台} \div 0.9) \times 0.72 = 3344$ 台となる。

● 駐車場必要容量

- ・回転率を1 / 1.8(平均滞在時間を平成13年度国土交通省公園利用実態調査による国営公園の休日平均在園時間データより約3.1時間とする。本公園は広域公園であるが規模・利用人員等、国営公園級であり国営公園在園時間データにて計上)とすると、駐車場の必要容量は以下の通りとなる。
- ・必要普通車駐車台数 $3,344 \text{台} \div 1.8 = 1,860$ 台
- ・身障者用スペースについても、必要台数を確保する。
- ・基準日を越える利用がある場合には、公園利用者の動線には直接影響がない管理用園路を臨時駐車場(約2km、縦列駐車で約260台駐車可能)として活用するなど、運営面で柔軟な対応を検討する。
- ・大型車についてもマストラ利用率を考慮し換算すると、最大日利用台数は $((84 \text{台} \text{ 実績値} \times 1.1) \div 0.9) \times 0.72 = 74$ 台となる。大型車での来園は団体行事等が多く、在園時間が普通乗用車よりも長くなり、回転率も普通車より小さくなる。また、大型車利用がされない際は、普通車の駐車スペースとしても活用できるため、普通車で計算したような回転率は考慮せず、現況台数程度(72台)を基本とした設定とする。
- ・その他、自動二輪については、過去の利用実績から現況の駐車台数(45台)を基本とした台数を確保する。

(3) 動線計画

公園の動線計画は、公園施設間の相互連絡をスムーズに行うと共に、施設間内の連絡路を効果的に配置するものであり、先に示したエントランスや主要施設の位置、博覧会の園路形態の活用を考慮し以下のように設定する。

● 人の動線

- ・人の動線は、北エントランスと西エントランスの2ヶ所が結節点となり、それぞれの場所から放射状に主要施設への連絡する動線を主動線として設定する。この動線は誰もが歩きやすいユニバーサル園路となるよう配置する。なお、幅員構成については地形条件等も加味し配置する。各エリア内は、細動線により全体的なネットワーク化を図る。

● 車の動線

ア) 管理用動線

- ・先に示した主動線と通りのゾーン外周部を結ぶ動線を管理用動線として設定する。防災時の動線としても機能する。

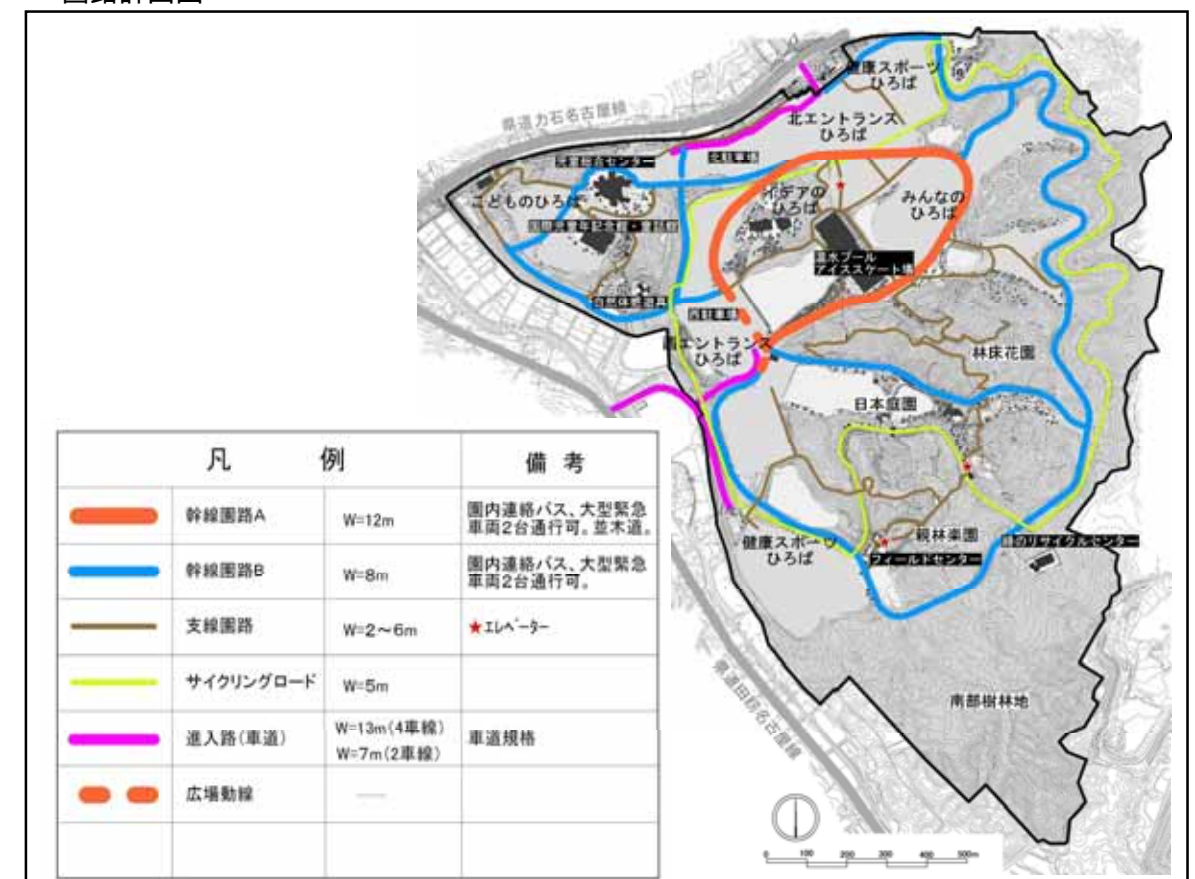
イ) 外部からの動線

- ・外部からの動線は、北エントランスに配置される北駐車場、西エントランスに配置される西駐車場へ公園外部から公園内への進入路となる動線である。

● 園路計画

- ・動線構成に基づいて、幹線園路、支線園路、サイクリングロード、進入路を設定する。各園路の構成は以下の図・表に示すとおりである。

■ 園路計画図



6 全体計画-2 <ユニバーサルデザイン、防災計画>

(4)ユニバーサルデザイン

誰もが安心して利用できる「人にやさしい公園」となるようユニバーサルデザインを推進する。施設整備の指標としては「愛知県 人にやさしい街づくり」による基準を基本とする。

●アクセス

- ・公園の主要施設や見所は、誰もが到達できるよう歩きやすい主動線としてネットワークさせる。主動線の園路勾配は4%を目標とするが、地形上やむを得ない場合は8%以下とする。
- ・動線の結節点となる場所には公園全体の案内板やルート表示を配置する。また、視覚的な表示だけではなく、場所によっては、点字等による誘導を行う。
- ・急勾配が想定されるルートや階段が存在するルートは、必要に応じエレベーター等の設置を行う。また、情報の提供や迂回動線の案内を行い、利用者が自ら判断できる施設整備を行う。

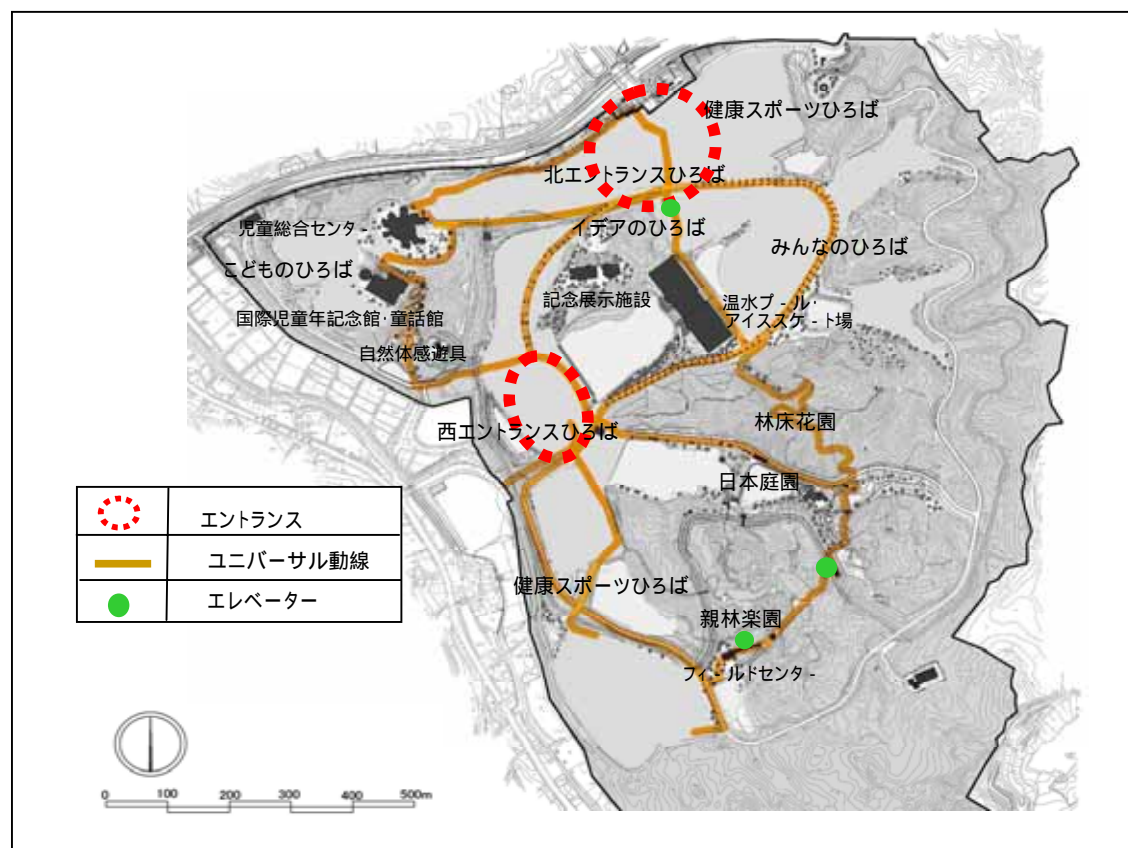
●プログラム

- ・高齢者や障害者等が安心して参加できるレクリエーションプログラムの導入を検討する

●施設整備

- ・誰もが利用しやすく、安全性に配慮した施設整備を行う。
- ・主要施設やトイレには乳幼児や障害者への対応を図った施設整備を行う。
- ・植栽や水景整備により、香りや木々のざわめき、水の流れの音などが楽しめる工夫を行う。

■ユニバーサル動線図

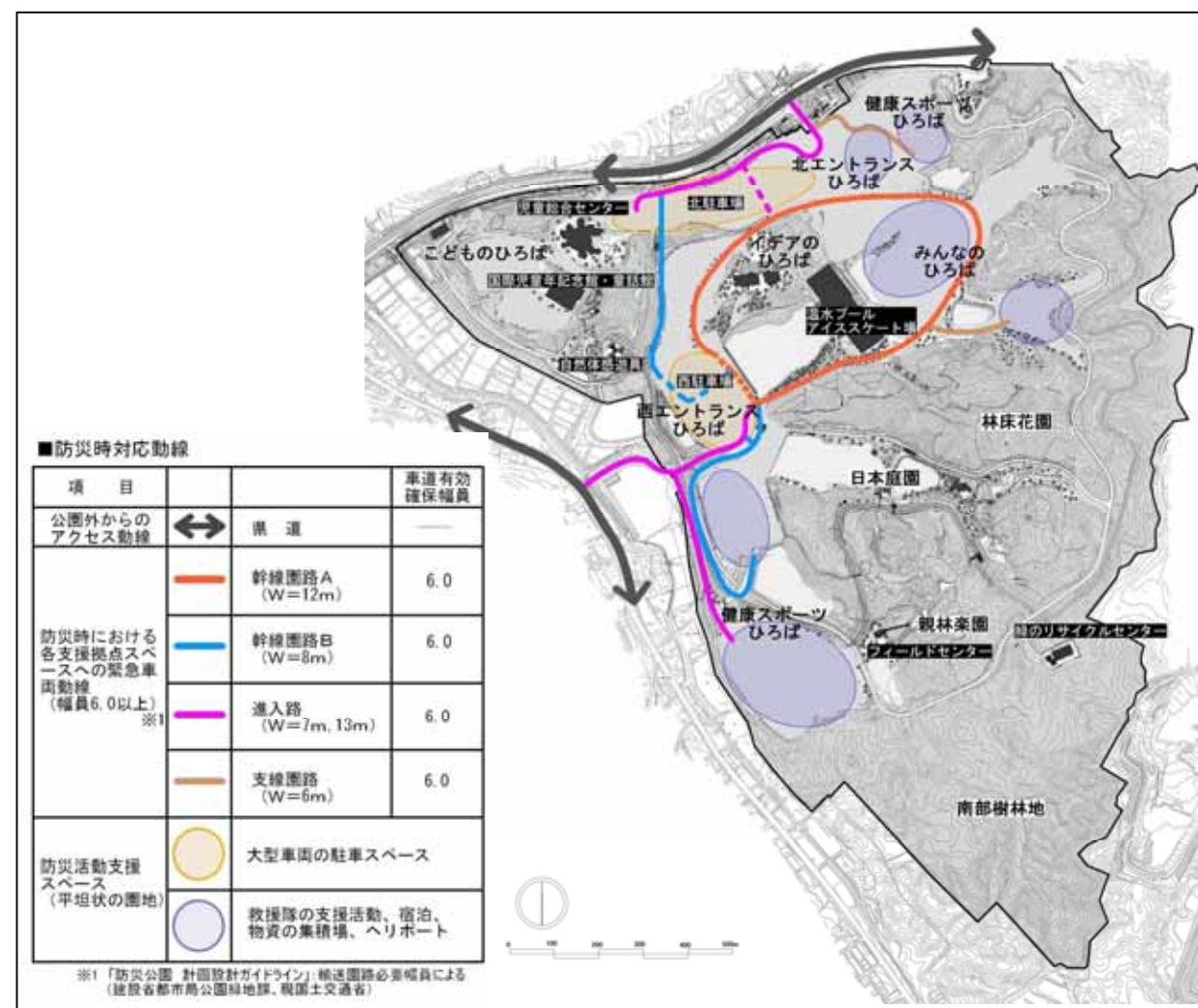


(5)防災計画

中核広域防災活動拠点として必要となる以下の機能を整備する。

- ・救援部隊の輸送機能の確保するため、公園入口から防災活動支援スペースとなる広場等へ連絡し、緊急車両が通行可能な幅員6.0mを満足する園路を、緊急車両動線として設定する。
- ・防災活動支援スペースとしては、大型車両の駐車スペースに駐車場を配置する。また、救援部隊の支援活動、宿泊、物資の集積場については、大空間である多目的広場、多目的球技場、大芝生広場、キャンプ場、野球場にて対応する。
- ・臨時ヘリポートは、ヘリコプターの離着陸機能を考慮し、障害物のかからないコースに対応できるスポーツ広場などを対象に設定する。
- ・救援部隊の拠点として救援部隊の指揮所をメインエントランスに設ける複合的な施設(パークセンター等)で対応する。また、備蓄庫をパークセンターと一体的に整備する。

■防災時対応動線図



6 全体計画-3 <自然環境保全計画・景観計画・植栽計画>

(6)自然環境保全計画

- ・既存樹林地の維持を図ると共に、博覧会施設跡地での自然回復を図る。(こいの池南側の植樹など)
- ・具体的な動植物の保全に際しては、博覧会整備前における現地調査結果を踏まえ対応する。

●植物

- ・現況種における注目すべき植物群落は、貧栄養湿地群落、モンゴリナラ群落が上げられる。貧栄養湿地群落は、もりのゾーンにおけるため池周辺、モンゴリナラ群落は、公園の樹林地全域で確認されている。植物種から見た保全重要性の高いエリアは調査結果によると、かえで池(日本庭園)南側と公園南部における二次林であり、維持管理において十分配慮する。

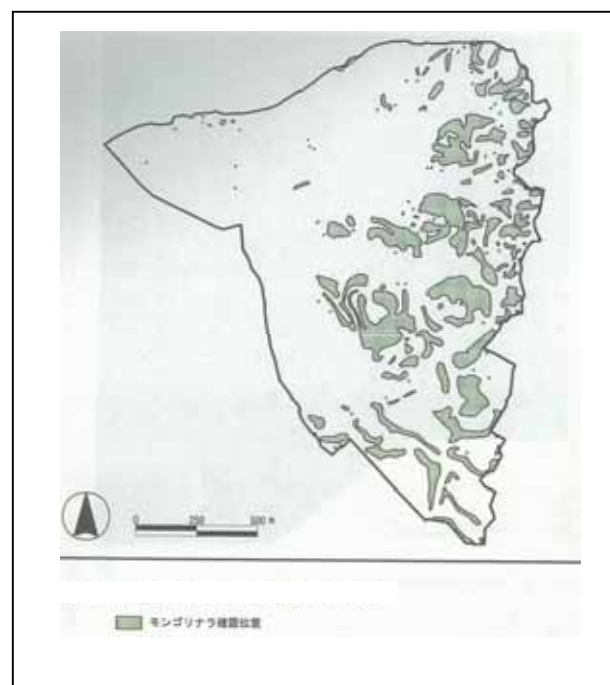
サギソウ、シラタマホシクサ、ミカキグサ、シマジタムラソウ、タチモ等

●動物

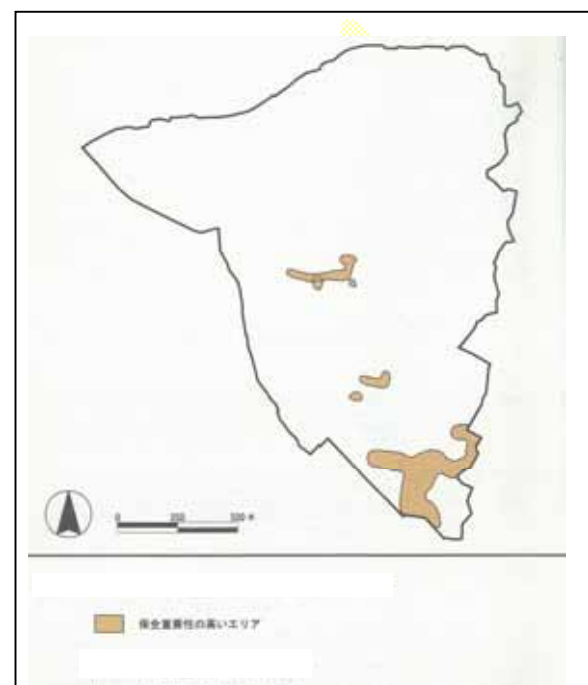
- ・博覧会整備前の現地調査結果によると、確認された注目すべき動物種は、鳥類としてオオタカ、ハチクマ、カワセミ、アオゲラ等の14種、魚類として、カワバタモロコ、ホトケドジョウ、昆虫類として、ギフチョウ、ベニイトトンボ、ハッチョウトンボ等8種が確認された。これらの動物種の多くはササ池、カキツバタ池、日本庭園東側の池やかめの池等のため池および樹林地周辺で確認されており、ため池を中心に生物の生息環境の保全に配慮した公園整備、活用とする。

- ・工事中の環境への配慮としては、既存樹林地内への不用意な立ち入りを禁止することや、工事で発生する濁水について処理を行った上で放流を行うものとする。また、環境負荷の低減への配慮やリサイクルの推進を図る。

■ 注目すべき植物種(モンゴリナラ)確認位置
(出典:2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価書)



■ 注目すべき植物種からみた保全重要性の高いエリア
(出典:2005年日本国際博覧会に係る環境影響評価書)



(7)景観計画

- ・緩やかな傾斜をもった丘陵地形であり、谷筋、尾根筋、ため池など、変化のある景観を楽しめる景観計画とする。特に、ため池は本公園に多数散在しており、水景を取り込んだ潤いのある景観とする。
- ・もりのゾーンや大花壇など博覧会前整備区域は、博覧会時の景観を引き継いでいく。また、新たに整備する施設周辺は、背後の樹林地との調和を考慮する。
- ・個々の地点における、見通し、眺望などの景観演出要素を考慮しながら特色ある整備を行う。

(8)植栽計画

- ・ひろばのゾーンで、博覧会施設撤去後の景観上のポイントとなる園路、広場、ため池沿い、主要施設周辺において、それぞれの場所の機能(修景、緑陰の確保、鑑賞等)を考慮した植栽を行う。
- ・もりのゾーンや公園外周部の既存樹林地は、緑豊かな景観を保持するため、適切な維持管理を行う。
- ・閉園前に仮移植されている旧公園の樹木を積極的に配植する。

■ 植栽計画図

